株式会社 ユビテック

証券コード:6662

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

第39期 第2四半期 ビジネスレポート

［2014年7月1日～12月31日］

1 トピックス
2 ごあいさつ
3 特集「新執行部が語る、これからのユビテック」
9 事業紹介
11 セグメント別業績
12 財務諸表
13 株式情報
14 会社情報

トピックス

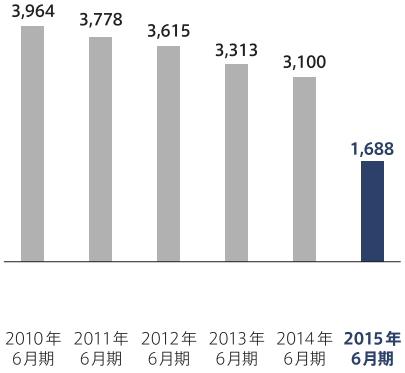
新たな体制で経営の立て直し

ユビテックは前期までの業績を踏まえて経営体制を改め、立て直しに向けた施策を進めています。ユビテックでは、ものづくりやソフトウェア開発、クラウド型サービスの提供など様々な事業を行っていますが、お客様に対してより的確なサービスをご提供できるよう昨年10月に組織の再編を行いました。同時に執行役員を新たに選任することで責任の範囲を明確にするとともに、新たな成長戦略の策定に向けた取り組みを進めています。また今後は豊富なネットワークを有するオリックスグループの強みを生かせるような連携強化も行っていきます。

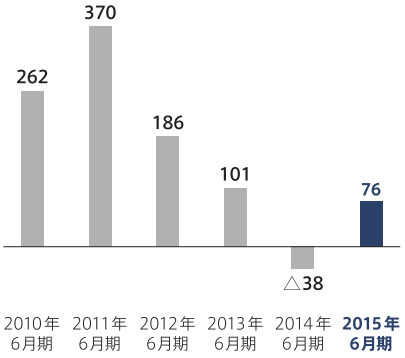
クラウド型ビデオ会議サービスの販売でオリックス・レンテックと連携

今年1月にはオリックス・レンテックのタブレットレンタルサービス「TabRen（タブレン）」と組み合わせて、ユビテックの提供するクラウド型ビデオ会議サービス「CanSee Powered by Vidyo」を提案する取り組みを開始しました。タブレットレンタルと共にビデオ会議サービスを短期間から利用することが可能となり、ビデオ会議サービスの新たな活用領域の開拓に挑戦しています。今後も、ユビテックの持つシステム開発力とオリックスグループのネットワークを生かし、お客様のニーズに合わせたサービスを提供していきます。

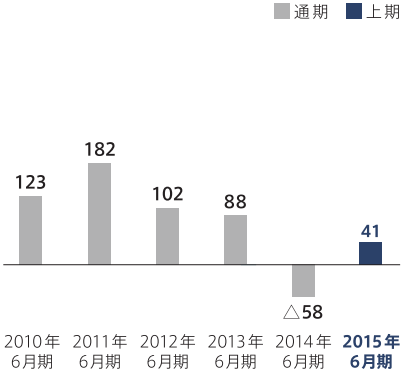
売上高 ［百万円］



営業利益 ［百万円］



当期純利益 ［百万円］



トップメッセージ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2015年6月期第2四半期（2014年7月～12月）の連結業績は、売上高1,688百万円（前年同期比17.8％増）、四半期純利益41百万円（前年同期は△64百万円）と増収増益となりました。これは主にATM向け紙幣鑑別センサモジュールとオリックス自動車向けテレマティクス車載機の受注が好調に推移したことによります。しかしながら、ATM向け紙幣鑑別センサモジュールについて第3四半期での販売を予定していた一部が当第2四半期に前倒しになったことから、通期の業績見通しは変更しておりません。

当社は2006年6月期をピークに売上と利益の減少傾向が続いており、前期には上場来初の赤字を計上したことで、株主の皆様には大変なご心配をおかけしておりますが、昨年10月より新たな体制の下で経営の立て直しを進めております。現在は、既存事業の執行体制を改め、お客様に質の高い製品やサービスをスムーズにご提供できる体制を整えるとともに、各事業や会社全体としての課題を抽出し、来期へ向けた次なる成長戦略の策定に取り組んでおります。

当社の置かれた状況は大変厳しいものと認識しておりますが、役員、従業員一同全力で取り組んで参る所存です。株主の皆様におかれましては、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長　宮内 健一

新執行部が語る、
これからのユビテック

株式会社ユビテックは、
2014年9月、オリックスグループから宮内健一を代表取締役社長に迎え、
10月より新たな執行体制をスタートさせました。
1977年の創業以来38年、さまざまなかたちで外からの
新しい力を得つつ、そのたびに新しい歴史を刻んできたユビテック。
オリックスグループに参加した2007年からの歴史を踏まえつつ、
今後どのように進化していくのか、
新執行部に就任した4人に語っていただきました。

執行役員
中山 哲郎

取締役 常務執行役員
林 雅弘

代表取締役 執行役員社長
宮内 健一

常務執行役員
矢﨑 達人

38年の歴史を刻むユビテックの技術

宮内　今日はビジネスレポート向けの座談会ということですけれど、まずはユビテックの歴史を振り返ってみましょうか。

林　ユビテックは1977年に「タウ技研」として設立されて以来、さまざまな歴史をたどってきました。

中山　そうですね。私が入社したのはそのタウ技研の頃でした。非常に小ぢんまりとしたオフィスで、あの時代の、いわゆる日本のベンチャー企業の雰囲気にあふれた会社でした。設立当初はオフィス用コンピュータ（オフコン）の設計と、そのマシンにのせる業務用アプリケーションソフトをメインに開発・販売していました。

矢﨑　当時はまだワークステーションではなく、オフコンの時代だったんですね。

中山　ええ、初期のオフコンを自社でつくっていたそうです。私が入社した頃はもうワークステーションの時代でしたが、設立に参加された方々も現役でいらっしゃって、ベンチャーの気風も色濃く残っていました。

宮内　事務ソフトの「Careerwave（キャリアウェーブ）」はその頃の製品ですね。

中山　そうです。当時のソフトウェア事業の主力商品でした。現在普及している経理事務や在庫管理などの業務用アプリケーションソフトの先駆けです。しかしウィンドウズの登場後、ソフトウェア事業が業績不振になると、1986年には新日本製鐵（現・新日鐵住金）が資本参加して、新たにハードウェア事業に力を入れることになります。現在の主力商品でもあるATM用センサモジュールをはじめ、液晶ディスプレイ用映像エンジンなど、現在のユビテックにつながる技術の多くを展開したのがこの時代です。

林　「Careerwave」はその後ユビテックソリューションズに移管され、2年前に販売を終了しました。

中山　「Careerwave」は今でもユーザーからアップデートの問い合わせがあるほど、熱烈なファンがいてくださるんです。うまくネットワークに対応できていたら、もっと大きな事業になったかもしれません。その後、新日鐵がエレクトロニクス分野から撤退し、2002年に親会社がインターネット総合研究所（IRI）に変わりました。この時代は、インターネット関係やネットワークを使ったソリューションなど、IRIが得意としていた分野で新しい事業が生まれました。また当時は上場という夢に向かっていた時期で

もあり、社内は活気に満ちていました。これがユビテックとしてのスタートとなったのです。

時代の数歩先を行く、ユビテックの技術

林　2004年にIRIユビテックと社名変更しますが、中山さんはその際のネーミングにも関わられたそうですね。

中山　最初は社内からアイデアを募りました。すると、当時IT業界で言われはじめていた「いつでもどこでも」という意味の「ユビキタス」という言葉を取り入れたらいいのではないかという意見が出て、それならばユビキタスとテクノロジーで、「ユビテック」という案が採用されました。

林　当時から社内にはエンジニアがたくさんいて、社名以外にも技術や製品に関するアイデアがいろいろと出てくるような雰囲気でしたね。

中山　技術者が、純粋に技術を追求した時代ですね。今のテレビは4Kが話題となっていますが、ユビテックでは2000年頃に4Kや8Kクラスの画像処理ボードを実現していました。2000年に開催された21世紀夢の技術展という展示会のあるブースでは、この画像処理ボードと10台のプロジェクターをつなぎ、大画面に高精細な映像を表示していて大きな注目を集めていました。

林　技術者一人に一つの技術があり、その特化した専門性が評価されていました。街角の防犯カメラや電車の中のディスプレイ表示などにもユビテックの技術が活かされていくだろうという期待感もありましたね。

矢﨑　2007年にはIRIがオリックスグループ入りしたことで、ユビテックもオリックスグループの一員となり、オリックスの事業へのサポートも始まりますね。

中山　その後、IRIがオリックスグループから離れ、ユビテックの社名からIRIが外れます。

宮内　私が社長にという話を受けたのが昨年、2014年7月末頃でした。初めて訪れたときの第一印象は、静かでまじめな会社だな、と。

矢﨑　私も同じ時期にオリックスからユビテックに

きました。オリックスは営業の会社ですから、良くも悪くも騒々しい（笑）。ユビテックは技術の会社らしく真摯さにあふれた雰囲気で、私はそういう良さを感じましたね。

技術力が活きる大きな組織改革への期待

中山　私が現在所属するセンサユニットグループには、タウ技研以来のベンチャー的な気風が残っています。これまでにもシャープやパナソニック電工（現・パナソニック）など、他社との協業や協力をしながら開発してきた事業が多いのですが、これとは別に日々の新しいチャレンジや、コツコツと独自のアイデアを開発していく努力も続けています。今、ようやくかたちになりそうなプロジェクトも見えてきました。ちょっとやってみようと思えばすぐに取り組むことができる。そうした開発のフットワークの軽さは、大手に比べてのユビテックの強みともなっていると思います。

林　現在は「電子機器事業」と「モバイル・ユビキタス事業」の二つのセグメントに分かれており、その中に成り立ちや時代の要請に応じたかたちで各事業が置かれています。しかしモバイル・ユビキタス事業の中にも電子機器事業でもありうるような事業もあり、技術が事業区分を超えている状況があります。

宮内　そうですね。ユビテックの技術力がよりよく発揮できる組織とはどういうものかをこれからも追及していきたいと考えています。当面の課題としては、現在主力になっている「ATM用センサモジュール」とオリックス自動車向けの「テレマティクスシステム」、この大きな二つの柱に次ぐ、第三の柱がほしいですね。その三つ目の柱をできる限り早く立ち上げたい。

中山　技術はあります。先ほどお話しした液晶ディスプレイ用の映像エンジンも、自社ブランドを立ち上げようという機運があったのですが、製品があまりに高性能すぎて一般の方には使いづらい、用途の限定されたものになってしまったという反省があります。

宮内　やはり性能が高いから売れる、ということではないでしょうね。

林　販売戦略が組織的に行われていなかったという反省はあります。先端的な開発は技術で実現できますが、エンジニアの目線だとそれはどんどん高性能化していってしまう。市場に対応した「商品」の開発、という視点も大切だと感じます。

先端技術で領域を拡大する ユビテックの未来

中山　これまでは営業力の弱さを痛感することが多々ありました。

林　現在は販売チャネルを、納品先のセットメーカーに頼っている状況ですが、ユビテック独自の市場をどのように開拓していくか、それは今後の大きな課題だと考えています。

矢﨑　製品の性能は非常に高いのですから、販売・営業の展開がテーマとして絞られてくるでしょう。営業としてはここ 2 年ほど、異なる分野への進出にチャレンジしていますね。営業の方法はさまざまに考えられますから、今後が非常に楽しみです。

宮内　私は技術についての専門的な知識を持っているわけではありませんから、自らアイデアを出して引っ張っていくタイプの社長にはなれません。しかし、だからこそボトムアップでどんどんアイデアが湧き上がってくるような、そんな自由な気風の体制をつくりあげていきたいと考えています。

中山　これまでも必ずしもトップダウンではなく、自分でアイデアを出しながら開発を進めてきた技術者も多くいました。それがユビテックという会社にもともと備わっている気風だったと思います。ですが、ここ数年それが少し弱くなっていた感じは否めないので、再び誰もがチャレンジ精神をもてるようになれば、とても良い会社になるのではないでしょうか。昨今の展示会を見るとハードウェアの進展が著しく

なっています。ハードウェアとネットワークの融合が求められるような分野では、ユビテックにはたくさんの知見が集積されています。今後はそうした技術の提供や製品開発なども展開できるのではないかと期待できます。

宮内　オリックス自動車が提供しているテレマティクスサービス「e テレマ」は、まさにハードウェアとネットワークの技術を活用したとてもいい事例ですね。オリックスの市場ニーズを先取りした事業化力にユビテックの技術力が加わったことで、社会の安全により貢献するサービスをつくりあげることができました。

矢﨑　オリックス一つとっても、テレマティクス以外にも、まだまだたくさん需要はあるはずです。グループ会社のメリットが活かせるところですね。

林　オリックスが必要とするソリューションの提供はもちろん、オリックスの販売の拡大に寄与するような新しい商品を開発することも重要だと思います。

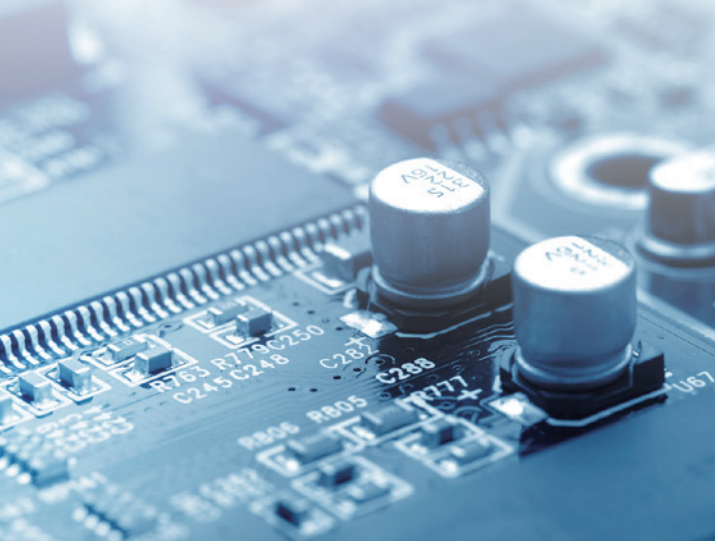
宮内　それはいいですね。オリックスグループの拡大とともに、ユビテックも領域を広げられる。それに、目に見える成果はさらなる発展につながりますからね。

ユビテックは３８年の歩みの中で、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークという異なる分野の多様な技術を蓄積してきました。そこには技術者たちが自ら掲げた高い目標に対して果敢に挑む姿を見出せますが、技術者集団ゆえの悩みも抱えていました。
今回、オリックスグループとの連携を強化することで、販売力という新たな強みを手に入れたユビテックは、新体制の下で次の成長ステージを目指して、新たな取り組みにチャレンジしていきます。

事業紹介

電子機器事業

電子機器事業では、さまざまな電子機器の開発から製造までを行っています。ユビテックの「モノづくり」は、まずお客様のお話を伺うところから始まります。今や電子機器は、海外のEMSへの製造委託が主流となっています。しかしユビテックでは、日本の技術者らしい細やかな発想と丁寧な対応で、オリジナル・デザイン・マニュファクチュアリング（ODM）を展開しています。ユビテックのODMでは、設計から製造、検査までを一貫した管理体制のもとで行い、高い品質とリーズナブルなコストを両立させるばかりではなく、お客様の潜在的な課題にまでアプローチする、一歩進んだサービスを提供しています。



センサユニット

ユビテックが得意とするのが、可視光、赤外線、紫外線、磁気など多様な情報をデータ化するイメージセンシング技術。産業機器の分野では、読み取りから評価までを高速で行う製品検査・監視用センサユニットを提供しています。また、高度な信頼性が求められる金融機器の分野でも、紙幣鑑別、カードリーダーなどのセンサユニットを提供しています。

カーソリューション

ユビテックの高度なセンシング技術とネットワークシステムを融合することで、自動車の走行にともなう多様な情報を収集・分析し、危険運転の予防や省エネ運転のサポートなど、ユーザの利益につながるサービスを提供します。車載機の製造からソフトウェアの開発・運用まで、トータルな「車両運行管理システム」を構築し、社用車やカーシェアリングなど、複数台の車両の運用と管理を支援します。

業務用電子機器製品

ユビテックではユニットの設計・製造だけではなく、最終製品のデザインから製造までも行っています。例えば、旅館、ホテルの宴会場などで使われる通信カラオケシステムは、180度回転し折り畳みも可能なディスプレイや大型キャスターを採用するなど、利用シーンを想定してデザインしています。お客様のコンセプトをもとに、デザインから量産、製品検査までを一貫して行うことで、お客様のビジネスを支援しています。

モバイル・ユビキタス事業

サーバ、ネットワーク構築に加え、ビジネスアプリケーションから機器制御の組込みソフトウェア開発など、主にネットワークとソフトウェアを主体とした事業です。コンピュータをはじめ、日常のさまざまな機器がネットワークに接続される時代となり、生活に利便性や快適性を実現する新しいソリューションが提供される一方で、今まで意識されていなかった領域におけるセキュリティの重要性も増しています。インターネットの黎明期からネットワーク事業に携わってきたユビテックは、長年培ってきた技術力と豊富な知見で、未来のスマート社会に貢献します。

クラウド型サービス

高品質な映像と音声で、いつでもどこでもビジュアルコミュニケーションができる「ビデオ会議サービス」をはじめ、照明や空調設備の制御、電力使用量の可視化を行う「省エネルギーサービス」など、オフィス向けサービスを提供しています。端末とネットワークを融合させることで、手間をかけず、規模や場所を選ばないクラウドならではのソリューションを実現します。

ソフトウェア開発

検体検査装置、通信監視装置、半導体製造装置、社会インフラ（ダム制御、放流警報、潮位情報）を中心とした、産業機器向け制御ソフトウェアや、ビジネスアプリケーションのコンサルティングから開発、保守までを行っています。特に医療機器分野においては、長年にわたり数多くの分析機用制御ソフトウェアの開発実績があり、豊富な知見を有しています。

ソフトウェア評価

携帯電話やスマートフォン、情報家電などの組込みソフトウェア、Android アプリ、クラウドサービスなど、ソフトウェアに潜む不具合の要因を検出しレポートします。また、さまざまな機器がネットワーク接続した際のセキュリティを独自に構築したフレームワークで評価します。ユビテックの長年にわたる組込みシステムの開発と、携帯電話端末評価のノウハウに基づくサービスです。

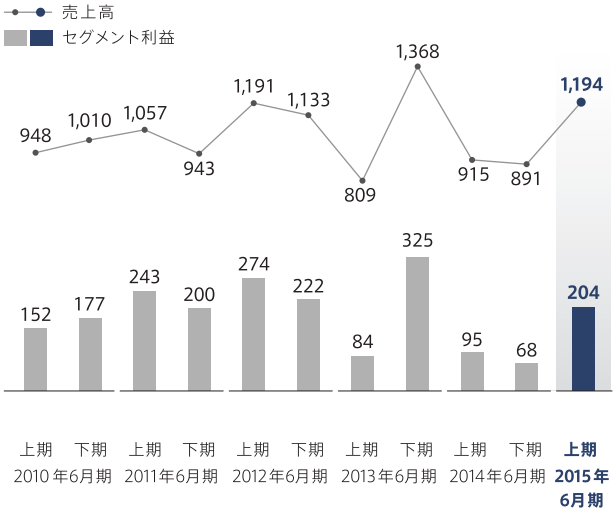
セグメント別業績

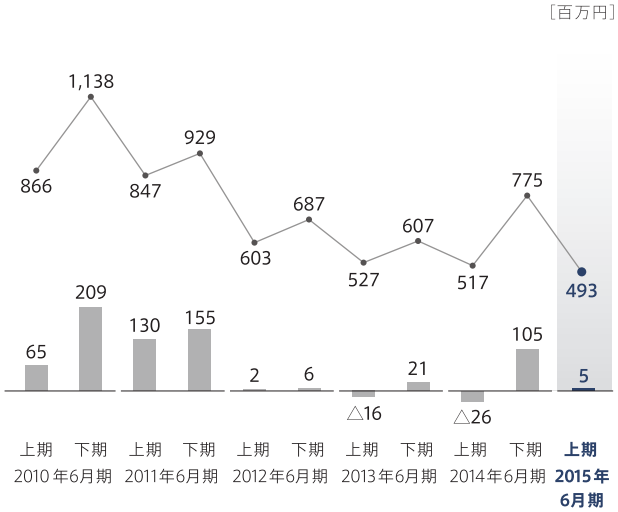
電子機器事業

電子機器事業は、中国市場を中心に ATM の需要が好調なことから紙幣鑑別センサモジュールの受注が堅調に推移しました。また、オリックス自動車向けのテレマティクス車載機の受注が増加したことにより増収増益となりました。この結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は 1,194 百万円（前年同四半期比 19.2％増加）、セグメント利益は 204 百万円（前年同四半期比 87.1％増加）となりました。

モバイル・ユビキタス事業

モバイル・ユビキタス事業は、子会社のユビテックソリューションズで行っているソフトウェアの受託開発等が堅調に推移しました。ビデオ会議システムソリューションの顧客数も着実に増加しており、収益を拡大しています。さらに組込み機器のセキュリティ案件に関する売上も寄与したことにより増収増益となりました。この結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は 493 百万円（前年同四半期比 14.5％増加）、セグメント利益は 5 百万円（前年同四半期はセグメント損失 39 百万円）となりました。





※2015 年６月期第１四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しております。2014 年６月期以前は変更前の数値で表示しています。

財務諸表

連結貸借対照表

［千円］

科目	前期末（2014年6月30日）	当第２四半期末（2014年12月31日）
資産の部		
流動資産	**3,588,091**	**3,785,939**
現金及び預金	2,469,769	2,418,062
受取手形及び売掛金	928,297	1,044,497
製品	4,149	51,009
仕掛品	15,246	96,592
原材料及び貯蔵品	55,580	79,411
繰延税金資産	7,283	6,287
その他	109,132	90,587
貸倒引当金	△1,368	△509
固定資産	**288,956**	**180,367**
有形固定資産	107,572	71,526
無形固定資産	13,710	11,901
投資その他の資産	167,674	96,939
資産合計	**3,877,048**	**3,966,307**

科目	前期末（2014年6月30日）	当第２四半期末（2014年12月31日）
負債の部		
流動負債	**425,656**	**515,256**
固定負債	**57,570**	**63,125**
負債合計	**483,227**	**578,381**
純資産の部		
株主資本	**3,304,987**	**3,303,046**
資本金	891,132	891,132
資本剰余金	605,034	605,034
利益剰余金	1,869,540	1,867,598
自己株式	△60,720	△60,720
その他の包括利益累計額	**7,037**	**△1,940**
新株予約権	**57,917**	**62,070**
少数株主持分	**23,878**	**24,750**
純資産合計	**3,393,820**	**3,387,925**
負債純資産合計	**3,877,048**	**3,966,307**

連結損益計算書

［千円］

科目	前年同期（2013年7月1日～12月31日）	当第２四半期（累計）（2014年7月1日～12月31日）
売上高	**1,433,262**	**1,688,576**
売上原価	1,235,746	1,396,983
売上総利益	**197,515**	**291,593**
販売費及び一般管理費	279,645	214,969
営業利益	**△82,129**	**76,624**
営業外収益	1,385	2,302
営業外費用	5,731	2,659
経常利益	**△86,475**	**76,267**
特別損失	9,031	1,026
税金等調整前当期純利益	**△95,506**	**75,240**
法人税等合計	△31,809	32,642
少数株主損益調整前当期純利益	**△63,697**	**42,597**
少数株主利益	432	848
当期純利益	**△64,130**	**41,748**

連結キャッシュ･フロー計算書

［千円］

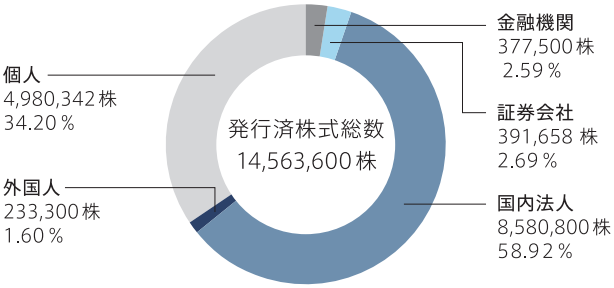
区分	前年同期（2013年7月1日～12月31日）	当第２四半期（累計）（2014年7月1日～12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	**49,923**	**△5,637**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**193,509**	**△3,414**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△45,133**	**△43,842**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**173**	**1,188**
現金及び現金同等物の増減額	**198,472**	**△51,706**
現金及び現金同等物の期首残高	**742,041**	**1,269,769**
現金及び現金同等物の期末残高	**940,514**	**1,218,062**

株式情報

株式の状況

［2014年6月30日現在］

発行可能株式総数	52,000,000株
発行済株式総数	14,563,600株
株主数	2,806名



大株主

［2014年12月31日現在］

株主名	持株数（百株）	出資比率（%）
オリックス株式会社	85,272	58.55％
糸谷　輝夫	5,025	3.45％
荻野　司	3,492	2.39％
日本証券金融株式会社	1,927	1.32％
小島　祥吾	1,807	1.24％
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与 ESOP 信託口）	1,727	1.18％
後和　信英	1,550	1.06％
土屋　延寿	1,520	1.04％
梶川　悦子	1,457	1.00％
株式会社SBI証券	721	0.49％

株主メモ

事業年度

毎年7月1日から翌年6月30日までの1年間

基準日

定時株主総会、期末配当　毎年6月30日
中間配当　毎年12月31日

定時株主総会

毎年9月下旬

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL.0120-232-711（通話料無料）

公告方法

電子公告（http://www.ubiteq.co.jp）
ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

会社情報 ［2014年12月31日現在］

会社概要

商号	株式会社ユビテック Ubiteq,INC.
設立	1977年11月17日
所在地	〒141-0031 東京都品川区西五反田一丁目18番９号 五反田NTビル
資本金	891百万円
金融商品取引所	東京証券取引所（ジャスダック）
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
証券コード	6662
従業員数	126名（連結）
連結子会社	株式会社ユビテックソリューションズ UBITEQ SOLUTIONS VIETNAM,LTD.

株主・投資家向け情報のご案内

当社では株主および投資家の皆さまに向けて、インターネットを通じて最新ニュース、IR情報などをご提供しております。

ホームページ

http://www.ubiteq.co.jp

役員

代表取締役社長	宮内　健一
取締役	林　雅弘
社外取締役	徳田　英幸
社外取締役	江崎　浩
社外取締役	小島　一雄
社外取締役	錦織　雄一
常勤監査役	平田　満
社外監査役	小林　稔忠
社外監査役	与謝野　肇

執行役員

執行役員社長	宮内　健一
常務執行役員	林　雅弘
常務執行役員	矢﨑　達人
執行役員	中山　哲郎

UBITEQ

UBIQUITOUS TECHNOLOGY